

平成 23 年度
産業廃棄物実績報告書入力集計等業務報告書

(平成 22 年度実績調査)

平成 24 年 3 月

岩 手 県

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1.1 調査業務の目的	1
1.2 調査の内容	1
1.3 各種報告書のデータ整備及び産業廃棄物の排出・処理状況の整理	2
第 2 章 調査結果の概要	6
2.1 平成 22 年度の産業廃棄物の排出量	6
2.2 平成 22 年度の産業廃棄物の処理状況	10
2.3 岩手県産業廃棄物排出・処理管理システムの作成結果	13
第 3 章 産業廃棄物処理業者の実績	16
第 4 章 産業廃棄物多量・準多量排出事業者の排出・処理実績	19
第 5 章 産業廃棄物の排出・処理状況の結果	21
第 6 章 産業廃棄物の将来予測	24
統計表 1 業種別・種類別の排出量	29
統計表 2 種類別の発生及び処理量	30
参考資料（調査に関する基本的事項）	32

第1章 調査の概要

1.1 調査業務の目的

本事業は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下、「廃棄物処理法」という。）に基づき、産業廃棄物処理業者及び排出事業者から提出される産業廃棄物処理実績報告書等の入力及び集計並びに県内全体の産業廃棄物の排出量や処理量等の解析及び推計を行い、県内における産業廃棄物の処理量等の統計資料を得ることにより、産業廃棄物の適正処理に資することを目的とした。

1.2 調査の内容

1) 産業廃棄物処理実績報告書等及び多量・準多量排出事業者処理計画実施状況報告書の入力

(1) 産業廃棄物処理実績報告書等の入力

産業廃棄物実態調査等システムに、次の産業廃棄物処理実績報告書等に記載の各項目を入力し、電子データ化する。

- ・ 産業廃棄物処理実績報告書（様式第23号）
- ・ 特別管理産業廃棄物処理実績報告書（様式24号）
- ・ 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の運搬実績報告書（様式25号）
- ・ 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の処分実績報告書（様式26号）

(2) 多量排出事業者処理計画実施状況報告書の入力

産業廃棄物実態調査等システムに、（特別管理）産業廃棄物処理計画実施状況報告書（様式第2号の3、様式第2号の5）に記載の各項目を入力し、電子データ化する。

(3) 準多量排出事業者処理計画実施状況報告書の入力

産業廃棄物実態調査等システムに、（特別管理）産業廃棄物処理計画実施状況報告書（様式第3号）に記載の各項目を入力し、電子データ化する。

(4) 多量・準多量排出事業所処理計画書の入力

産業廃棄物実態調査等システムとは別に、（特別管理）産業廃棄物処理計画書（様式第2号の2、様式第2号の4、様式第1号）に記載の各項目を入力し、電子データ化する。

2) 県内の産業廃棄物発生量等の解析及び推計値の算出

(1)、(2)、(3)の情報を基に産業廃棄物の排出量や処理量等の算出を行った。

3) 環境省が実施する調査に係る各種調査票の作成

環境省で実施する産業廃棄物の広域移動量調査、産業廃棄物行政組織等調査、産業廃棄物排出・処理状況調査、感染性産業廃棄物の中間処理業者の処理実績、温室効果ガスに係る調査票を作成した。

4) 「岩手県産業廃棄物排出・処理管理システム」の作成

1)のデータを基に、各種の分析等がシステム上で行えるよう分析ツール(岩手県産業廃棄物排出・処理管理システム)の作成を行った。

1.3 各種報告書のデータ整備及び産業廃棄物の排出・処理状況の整理

1)産業廃棄物処理業者の報告書の整備

(1)物流情報の整理

平成 22 年度実績として産業廃棄物処理業者の実績報告書の情報は、廃棄物の種類、量、委託者（排出事業者）及び所在地、処分業者名及び処分方法、処分先所在地等の整備を行い、更に、排出事業者及び所在地と処分業者及び所在地の関係から、表 1.1 に示す物流コードに基づき整理した。

なお、委託者の排出事業者と業者（中間処理残さ物を委託）の識別は、「委託者の名称と所在地」と「県内の中間処理業者と処理施設所在地」のマッチングを行った。

表 1.1 物流フローの整理内容

情報ソース	流れ	処分区分	物流コード(委託者)			備考
			事業者	業者	自社	
処分業の報告	県内→県内	中間	A	ア	サ	
	県内→県内	最終	B	イ	シ	
	県外→県内	中間	C	ウ		
	県外→県内	最終	D	エ		
収集運搬業の報告	県内→県外	中間	E	カ	ソ	
	県内→県外	最終	F	キ	タ	
	県内→県内	中間	Q	R		
	県内→県内	最終	S	T		
	県外→県内	中間	U	V		
	県外→県内	最終	W	X		

(2)排出事業者の産業分類（業種）の整備

(1)の物流情報で整理した事業者（産業廃棄物排出事業者）及び自社分については、既存の各種事業所名簿等を用いて、業種コードを整理した。

2)事業者の報告書の整備

平成22年度の実績として、多量排出事業者及び準多量排出事業者からの実績報告の情報は、事業者の業種、廃棄物の種類、量等の整備を行った。

また、紙くず、繊維くず、動植物性残さ及び動物のふん尿については、廃棄物処理法で、産業廃棄物となる業種が指定されている。このため、指定された業種以外の事業所から発生した紙くず、繊維くず、動植物性残さ及び動物のふん尿については、事業系一般廃棄物として除外した。

3) 産業廃棄物の排出・処理量の推計

産業廃棄物の発生及び処理は、排出事業者から発生し、自社処理と委託処理で構成される。

①委託処理

産業廃棄物処理業者の受託処理実績から把握した。

②自社処理

自社で完結（委託に回らない）する処理は、売却又は自社利用、自社での脱水、焼却処理等による減量、自社埋立である。これらの処理を有する事業者の大部分（量的カバー）は、産業廃棄物の多量排出事業者であると仮定し、多量排出事業者及び準多量排出事業者から報告データで把握した。

なお、①及び②の情報から把握できない要因を整理し、捕捉調査を実施した。

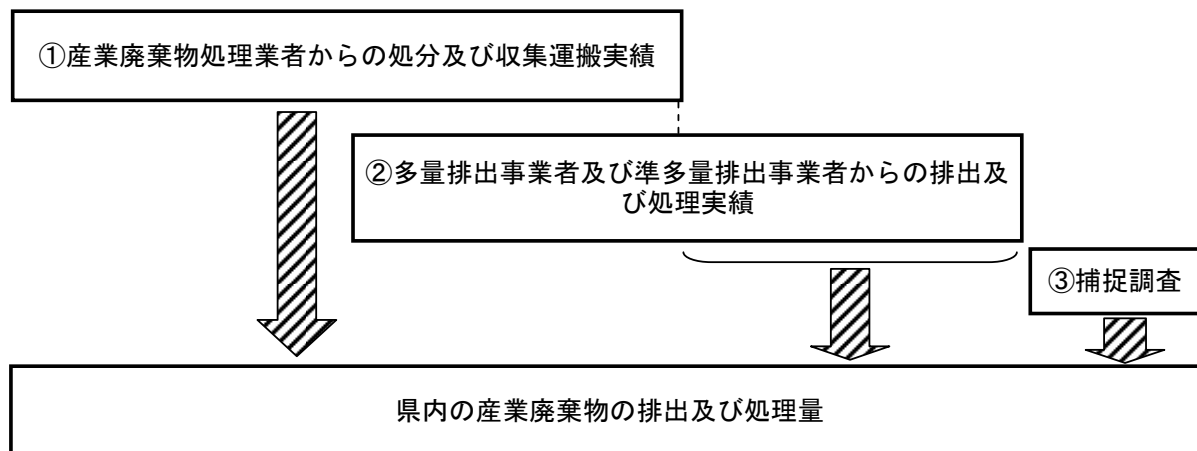


図 1.1 産業廃棄物の排出・処理量の推計方法の概略

(1)産業廃棄物処理業者からの処分及び収集運搬実績

排出事業者より排出された産業廃棄物のうち、県内又は県外の間接処理又は最終処分業者で処理された産業廃棄物について、委託者（排出事業者）を整理し、処理フローを把握した。

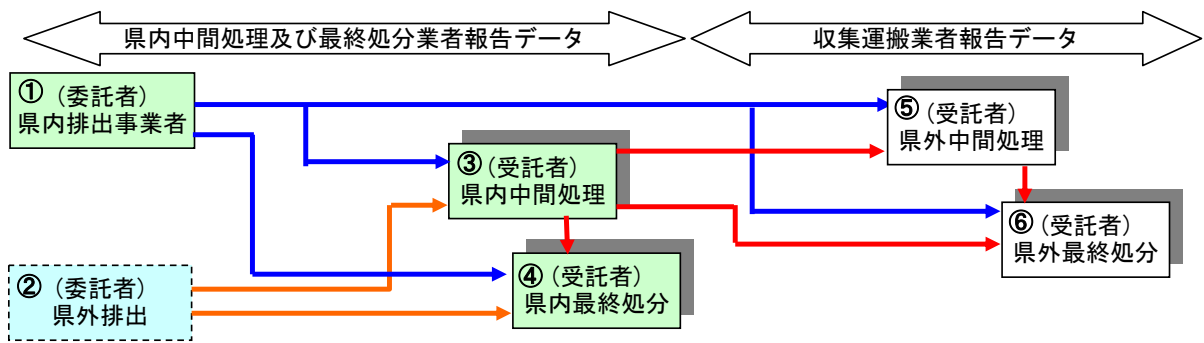


図 1.2 処分実績及び収集運搬実績データからの処理フロー作成概念図

(2) 排出事業者からの排出及び処理実績

廃棄物処理法に基づく多量排出事業者実施報告に基づく排出事業者の実績報告より排出された産業廃棄物のうち、排出事業者内で処理が完結している自己減量化量、自己再生利用量、自己埋立処分量について、処理フローを把握した。

(3) 捕捉調査

(1)、(2)の情報から十分に把握できない、脱水等による自己中間処理量（自己減量化量）については、既存資料により補完した。

第2章 調査結果の概要

2.1 平成22年度の産業廃棄物の排出量

平成22年度の1年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の排出量は1,845千トンとなり、種類別にみると、汚泥が850千トン(46%)で最も多く、次いで、がれき類が614千トン(33%)となっており、この2種類で全体の79%を占めている。(図2.1)

業種別にみると、建設業が695千トン(38%)で最も多く、以下、電気・水道業が521千トン(28%)、製造業が360千トン(20%)となっており、この3業種で全体の86%を占めている。(図2.2)

排出量を種類別、業種別にみると表2.1のとおりである。

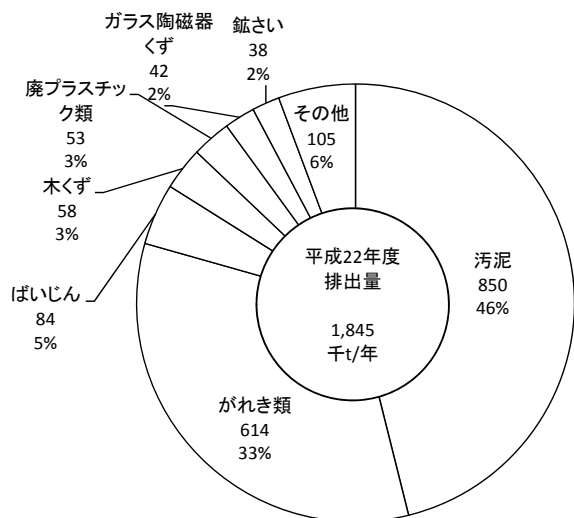


図 2.1 産業廃棄物の種類別の排出量

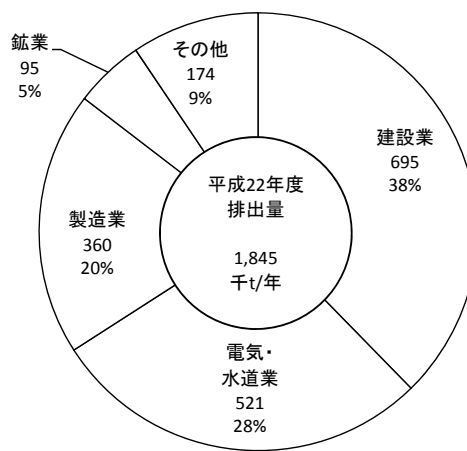


図 2.2 産業廃棄物の業種別の排出量

表 2.1 産業廃棄物の種類別、業種別の排出量（平成 22 年度）

(単位:千t/年)

種類	業種													
	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育、学習支援	複合サービス業	サービス業	その他の業種
合計	1,845 (100%)	95 (5%)	695 (38%)	360 (20%)	521 (28%)	0 (0%)	1 (0%)	15 (1%)	1 (0%)	14 (1%)	3 (0%)	16 (1%)	27 (1%)	96 (5%)
燃え殻	12 (1%)		2	9			0	0	0	0	0	0	1	0
汚泥	850 (42%)	95	18	144	513	0	0	3	1	3	1	2	7	64
廃油	17 (1%)		1	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6
廃酸	38 (2%)		3	15	0	0	0	0		6	0	9	1	2
廃アルカリ	10 (0%)		0	5	0		0	0	0	0	0	0	0	4
廃プラスチック類	53 (3%)	0	20	11	0	0	0	8	0	2	0	3	4	5
紙くず	2 (0%)		1	0										
木くず	58 (3%)	0	52	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
繊維くず	1 (0%)		1											
動植物性残渣	6 (0%)			6										
動物系固形不要物	1 (0%)			1										
ゴムくず	0 (0%)		0											
金属くず	6 (0%)		3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ガラス陶磁器くず	42 (2%)	0	28	10	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1
鋳さい	38 (2%)		2	35							0		0	0
がれき類	614 (30%)	0	563	28	3	0	0	2	0	0	1	0	10	7
ばいじん	84 (4%)		0	84								0	0	0
動物の死体	3 (0%)											0	1	1
その他	12 (1%)	0	2	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	4

〔参考〕 産業廃棄物の種類別、業種別の排出量（平成 21 年度）

(単位:千t/年)

種類	業種													
	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育、学習支援	複合サービス業	サービス業	その他の業種
合計	2,026 (100%)	95 (5%)	928 (46%)	356 (18%)	502 (25%)	0 (0%)	2 (0%)	19 (1%)	1 (0%)	14 (1%)	1 (0%)	4 (0%)	45 (2%)	59 (3%)
燃え殻	10 (0%)		0	8				0	0	0		0	1	0
汚泥	832 (41%)	95	10	160	496	0	0	5	0	0	1	2	11	52
廃油	13 (1%)		1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
廃酸	22 (1%)		0	10	0	0	0	0		6	0	0	6	0
廃アルカリ	12 (1%)		0	8	0	0	0	0		0	0	0	1	2
廃プラスチック類	57 (3%)	0	15	13	0	0	0	12	0	3	0	1	12	1
紙くず	2 (0%)		2	0										
木くず	56 (3%)		56	0										
繊維くず	1 (0%)		1											
動植物性残渣	12 (1%)			12										
動物系固形不要物	10 (0%)			10										
ゴムくず	0 (0%)		0										0	
金属くず	8 (0%)		5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
ガラス陶磁器くず	72 (4%)		23	34	4	0	2	1	0	2	0	0	6	0
鋳さい	66 (3%)		0	66									0	
がれき類	814 (40%)		814											
ばいじん	25 (1%)		0	25									0	
動物の死体	5 (0%)			0								0	2	3
その他	9 (0%)		3	0	1	0	0	0	0	3	0	0	1	0

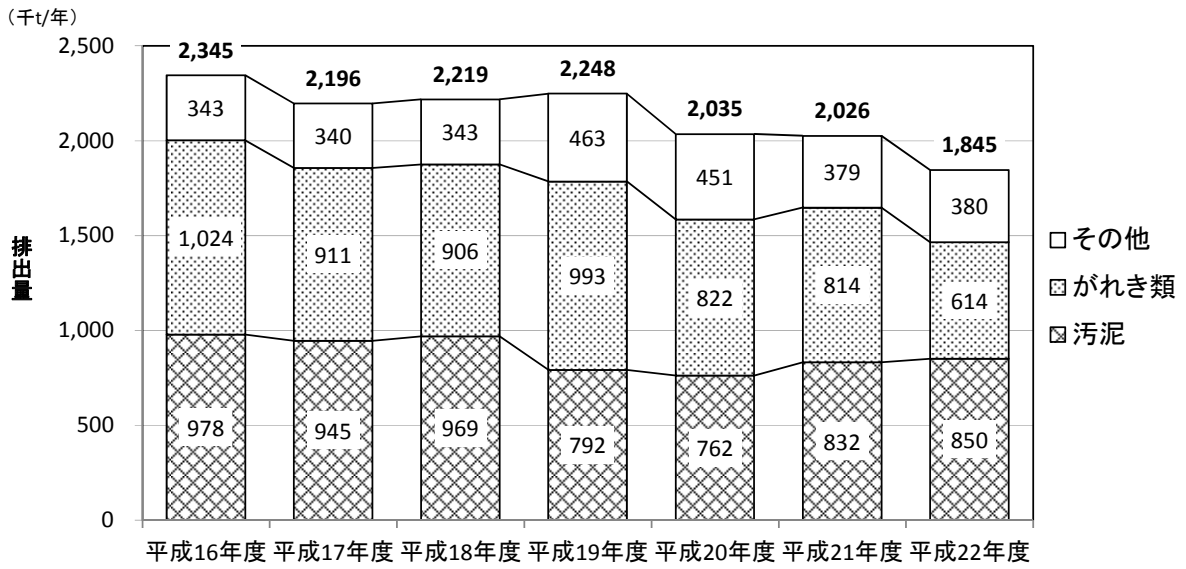


図 2.3 排出量（種類別）の推移

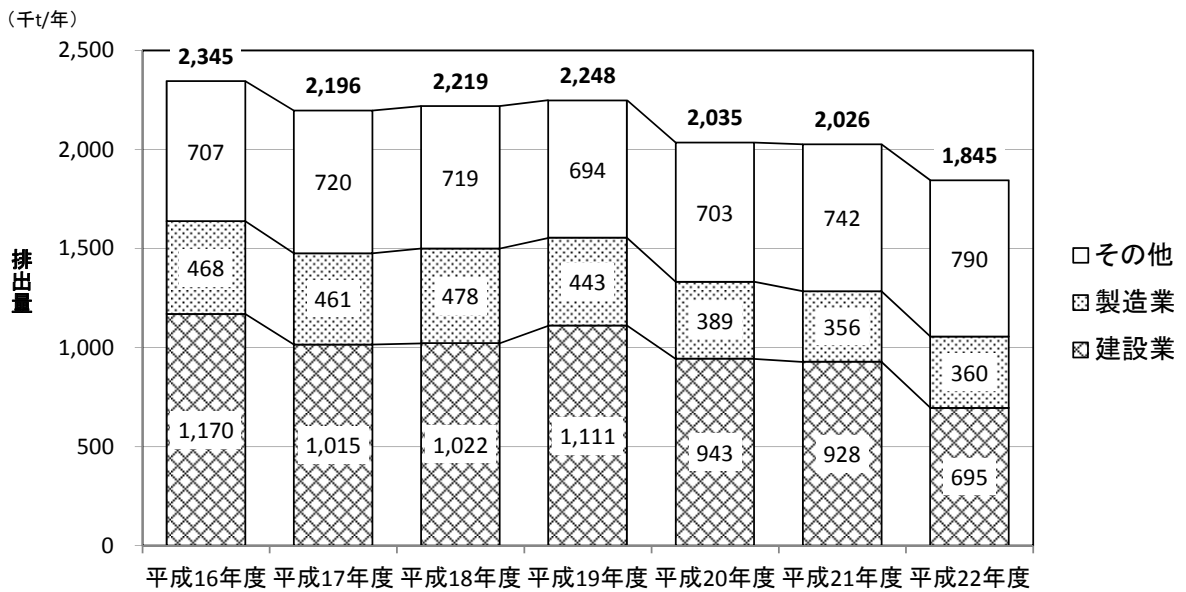


図 2.4 排出量（業種別）の推移

排出量を地域別にみると、盛岡地域が583千トン(32%)で最も多く、次いで、岩手中部地域が379千トン(20%)、両磐地域が186千トン(10%)、胆江地域が181千トン(10%)、気仙地域が145千トン(8%)、釜石地域が130千トン(7%)、宮古地域が95千トン(5%)、二戸地域が90千トン(5%)、久慈地域が57千トン(3%)となっている。(表2.2、図2.5)

なお、4地域区分(広域)でみると表2.3のとおりである。

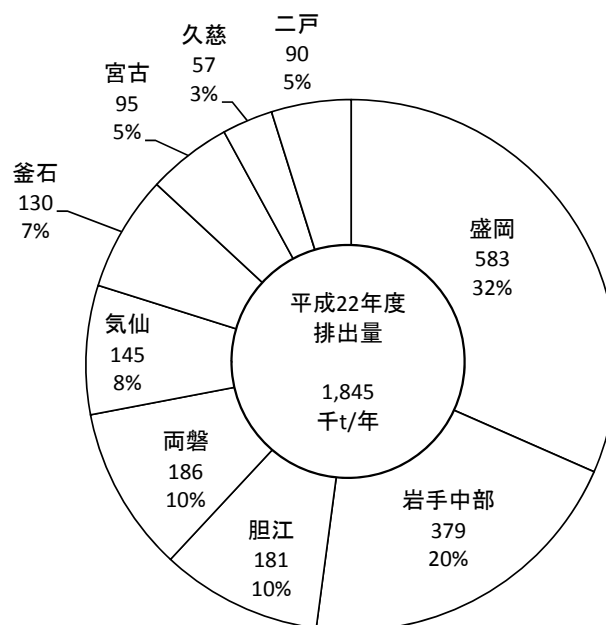


図2.5 地域別の排出量

表2.2 産業廃棄物の地域別の排出量 (平成22年度)

(単位:千t/年)

	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	合計
鉱業	3	10	0	0	80	2	0	0	0	95
建設業	232	98	108	103	27	32	43	34	17	695
製造業	57	170	30	48	10	35	3	3	3	360
電気・水道業	237	79	34	24	20	56	46	13	13	521
その他の業種	54	21	9	10	8	5	3	8	56	174
合計	583 (32%)	379 (21%)	181 (10%)	186 (10%)	145 (8%)	130 (7%)	95 (5%)	57 (3%)	90 (5%)	1,845 (100%)

表2.3 産業廃棄物の広域別の排出量 (平成22年度)

(単位:千t/年)

	盛岡広域	県南広域	沿岸広域	県北広域	合計
鉱業	3	10	83	0	95
建設業	232	310	102	51	695
製造業	57	248	49	6	360
電気・水道業	237	137	121	26	521
その他の業種	54	41	15	64	174
合計	583 (32%)	745 (40%)	370 (20%)	147 (8%)	1,845 (100%)

2.2 平成 22 年度の産業廃棄物の処理状況

平成 22 年度における産業廃棄物の処理状況をみると、排出量 1,845 千トンのうち、94%に当たる 1,733 千トンが中間処理量となっている。この中間処理により 742 千トン（40%）が減量されている。

再生利用量は、排出量の 56%に当たる 1,036 千トン、最終処分量は 67 千トンで、排出量の 4%となっている。（図 2.6）

種類別の処理状況は、図 2.7 のとおりである。

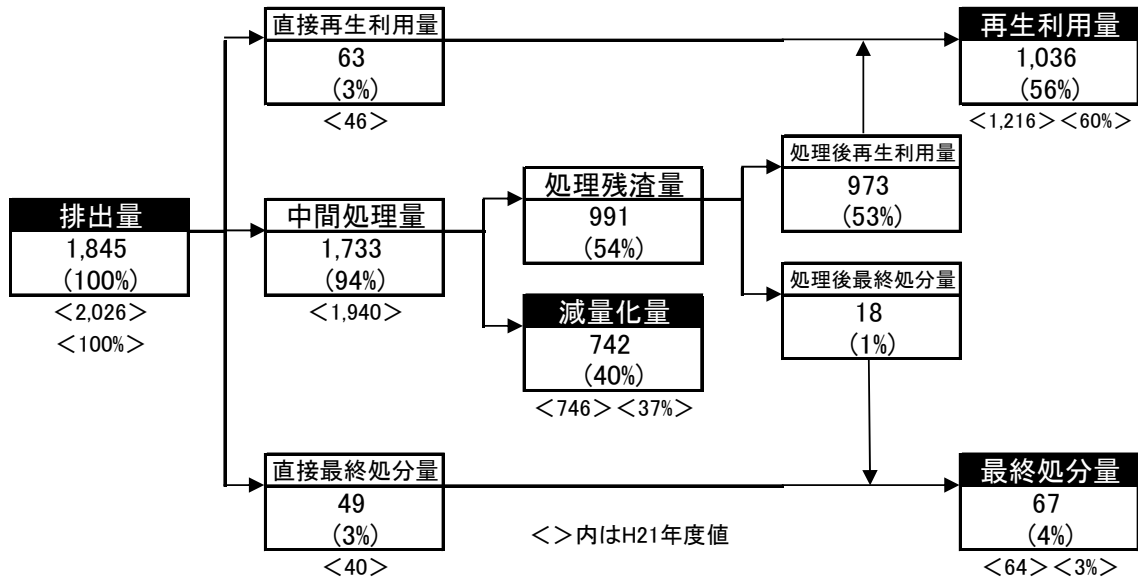


図 2.6 平成 22 年度の産業廃棄物の処理状況

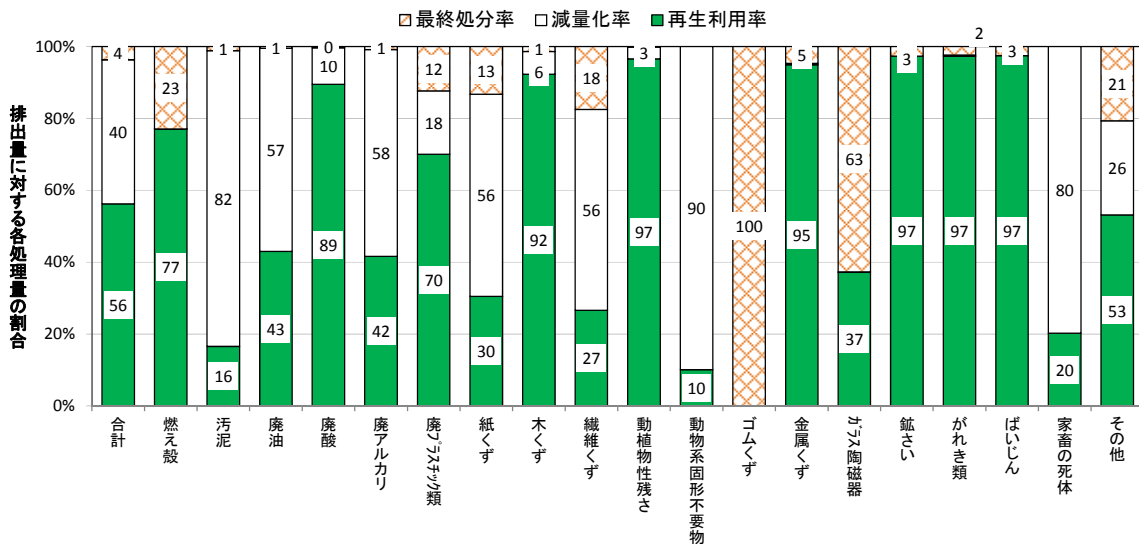


図 2.7 平成 22 年度の産業廃棄物の種類別の処理状況

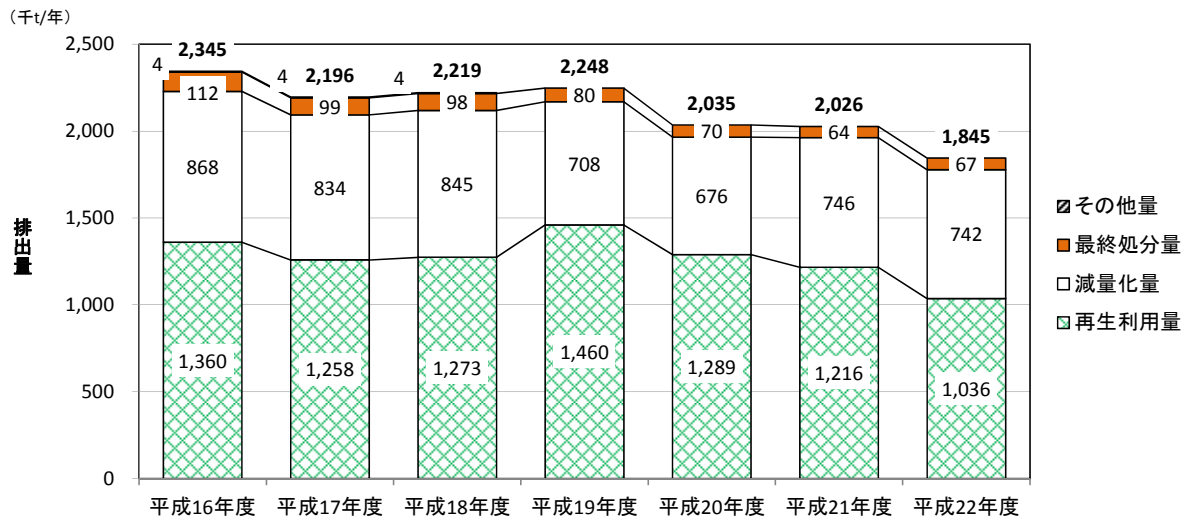


図 2.8 処理量の推移

平成 22 年度における産業廃棄物の処理状況を詳細にみると、図 2.9 のとおりである。

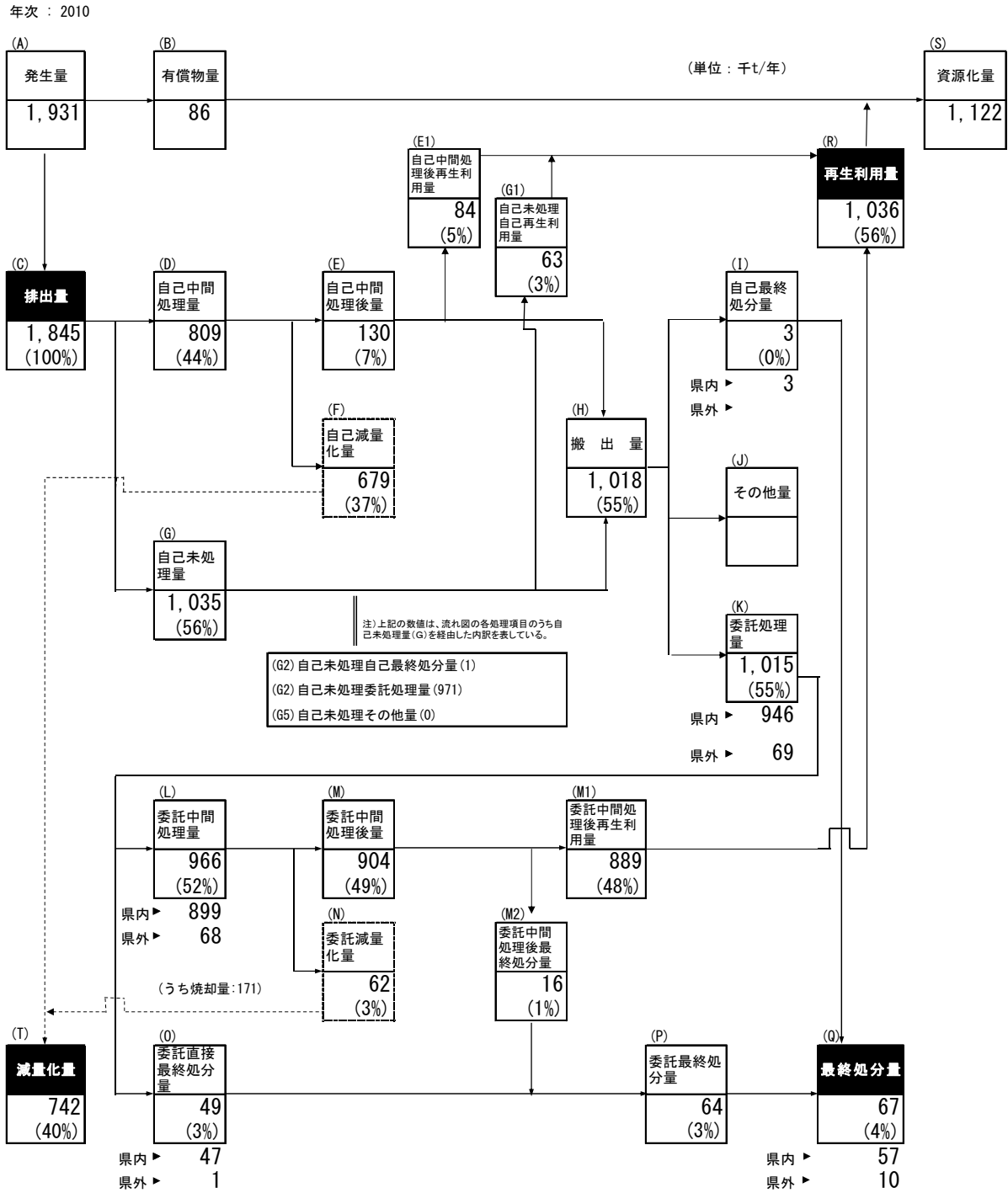


図 2.9 平成 22 年度の産業廃棄物の排出・処理状況

2.3 岩手県産業廃棄物排出・処理管理システムの作成結果

平成 22 年度実績として産業廃棄物処理業者及び排出事業者から提出された産業廃棄物の排出・処理状況に関する報告書のデータ等を基に、「岩手県産業廃棄物排出・処理管理システム」に情報登録し、岩手県をとりまく産業廃棄物の物流を整理した結果は、図 2.10、図 2.11 のとおりである。

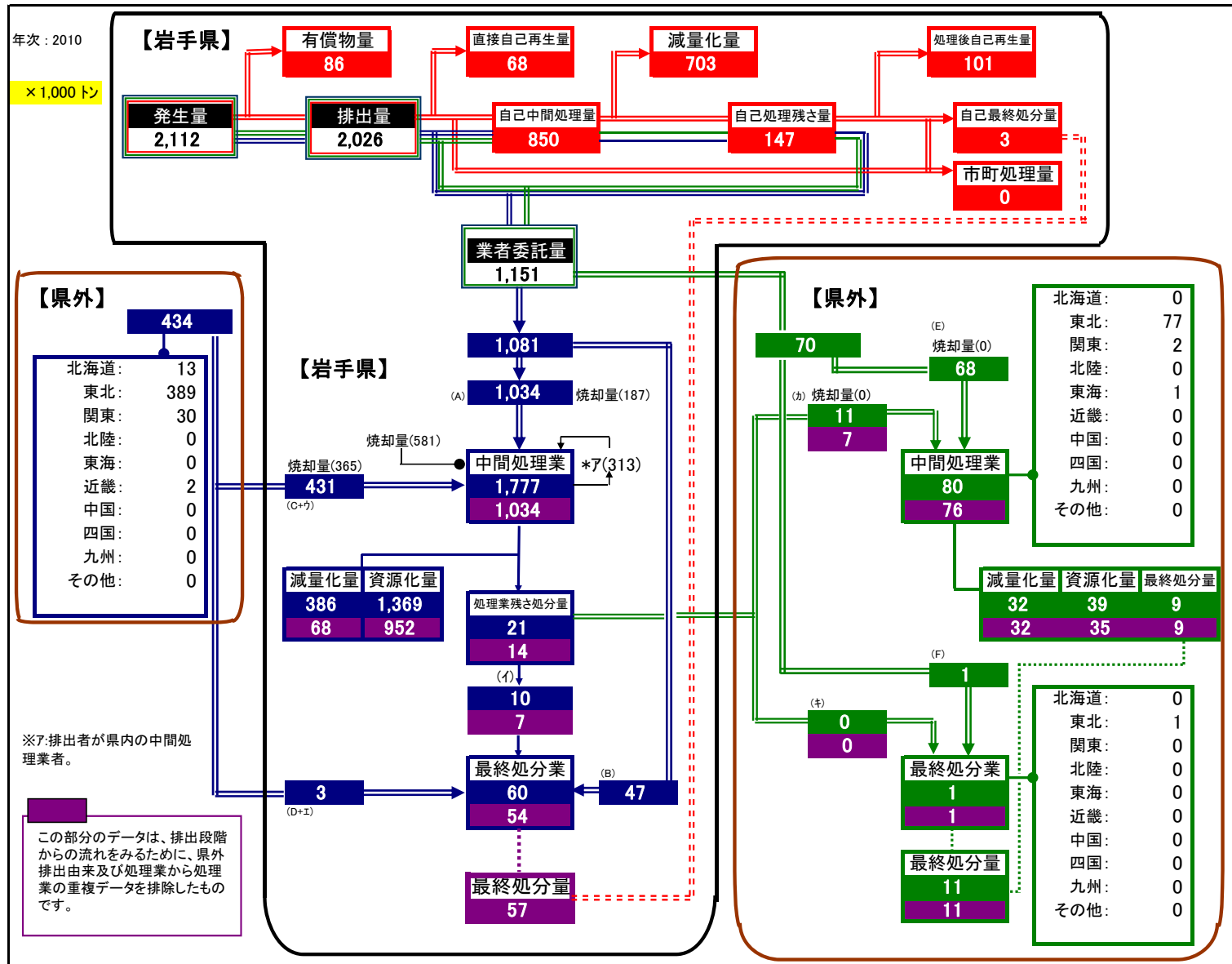


図 2.10 「岩手県産業廃棄物排出・処理管理システム」(メインフロー) <事業系一般廃棄物を含む登録されたすべての廃棄物情報>

第3章 産業廃棄物処理業者の実績

平成22年度における県内での中間処理量は1,600千トンとなっており、このうち1,171千トンが県内の排出事業者等から搬入され、429千トンが県外から搬入されている。

県内の最終処分量は57千トンで、このうち54千トンが県内の排出事業者等から搬入されている。

県外へ搬入した産業廃棄物は90千トンで、このうち中間処理が79千トン、最終処分が11千トンとなっている。

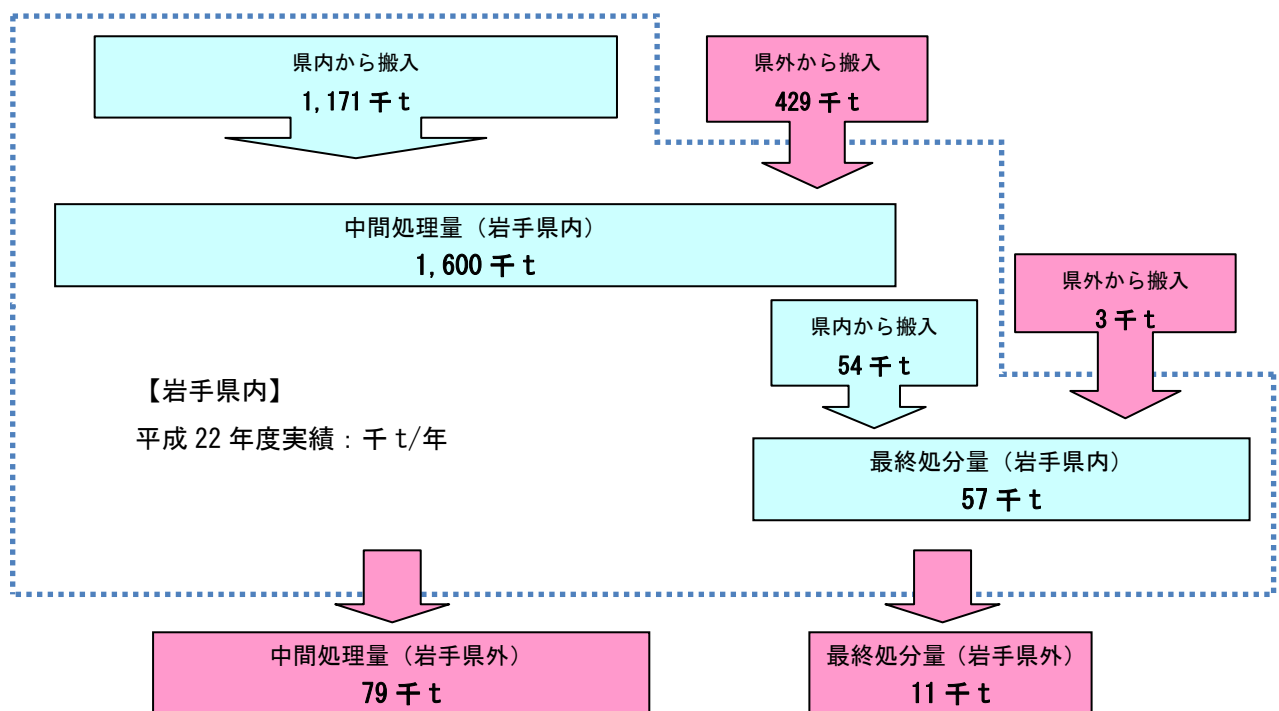


図3.1 産業廃棄物処理業者の処分実績の概要

種類別の処理状況を見ると表3.1、図3.2～図3.4のとおりである。

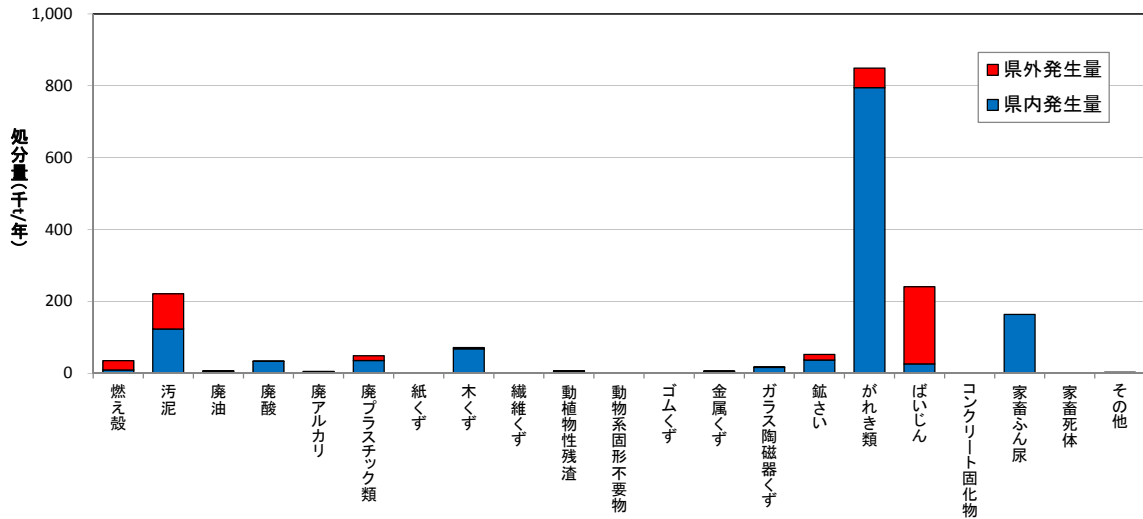


図 3.2 県内の中間処理業者の処分実績

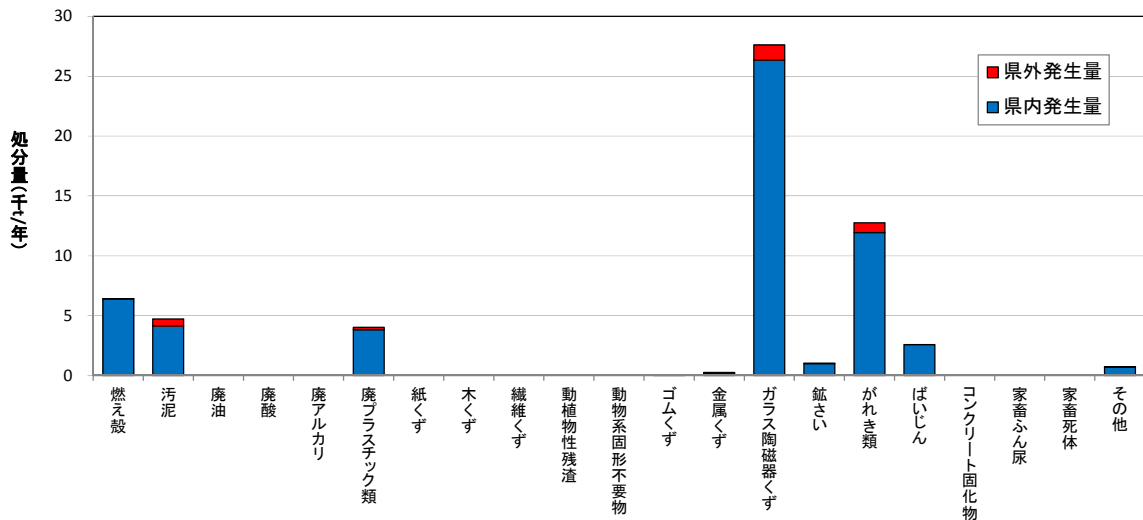


図 3.3 県内の最終処分業者の処分実績

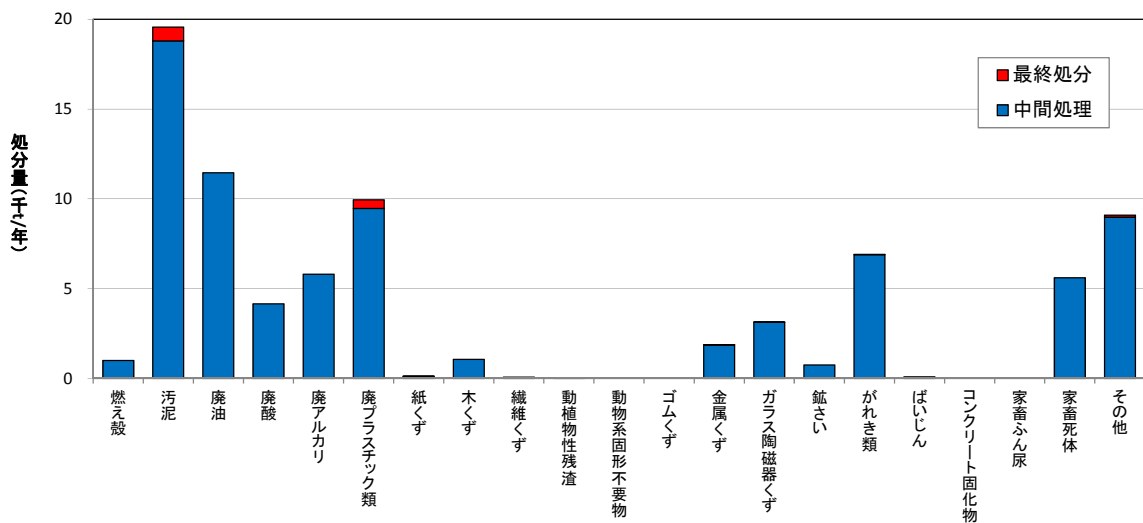


図 3.4 県外へ搬出された処分実績（収集運搬実績より）

表 3.1 産業廃棄物収集運搬、処分実績報告データの単純集計

年次:2010		【業者L1】														(単位: t/年)										
処理・処分処分 種類(無変換)	物流計	県内での処分実績														県外への搬出										
		中間処理業										最終処分業				中間処理					最終処分					
		計	うち焼却量	中間処理		県外搬入	処理後の収支(推計) *再処理に伴う収支を含む			※計に含まれない (自社分)	計	県内発生 排出事業者からの直送	県内発生 処理業者からの残さ	県外搬入	※計に含まれない (自社分)	計	計	うち焼却量	県内発生 排出事業者からの直送	県内発生 処理業者からの残さ	処理後の収支(推計) *再処理に伴う収支を含む			計	県内発生 排出事業者からの直送	県内発生 処理業者からの残さ
				県内発生 排出事業者からの直送	県内発生 処理業者からの残さ		処分残渣	資源化	減量化												処分残渣	資源化	減量化			
		(A)	(7)	(C+7)				(9)			(B)	(4)	(D+E)	(9)			(E)	(6)				(F)	(8)			
合計	1,904,335 (100.0%)	1,763,559 (92.6%)	579,659 (30.4%)	1,021,828 (53.7%)	313,133 (16.4%)	428,599 (22.5%)	8,759 (0.5%)	1,667,742 (87.6%)	87,058 (4.6%)	30,637 (1.6%)	60,179 (3.2%)	47,372 (2.5%)	9,781 (0.5%)	3,026 (0.2%)	256 (0.0%)	80,597 (4.2%)	79,227 (4.2%)	67,894 (3.6%)	11,333 (0.6%)	9,274 (0.5%)	38,340 (2.0%)	31,613 (1.7%)	1,370 (0.1%)	1,364 (0.1%)	5 (0.0%)	
燃え殻	42,307	34,892	34,890	9,338		25,554		34,892			6,413	1,786	4,616	10		1,003	1,003	1,000	3	996	6	1				
汚泥	245,597	221,302	182,403	111,769	11,773	97,760	2,684	198,554	20,065	25	4,734	4,081	59	595		19,560	18,791	18,400	391	863	11,654	6,274	769	769		
有機性汚泥	86,101	80,674	56,038	48,194	515	31,965	1,433	64,880	14,361	10	239	239				5,188	5,188	5,188		45	4,416	728				
無機性汚泥	159,495	140,628	126,365	63,575	11,258	65,796	1,251	133,674	5,704	15	4,496	3,842	59	595		14,372	13,603	13,212	391	818	7,238	5,546	769	769		
識別不明																										
廃油	17,939	6,489	2,187	5,148	123	1,219	18	5,435	1,036							11,450	11,450	11,390	61	68	2,705	8,677				
廃酸	37,750	33,598	636	33,434	10	154	53	33,115	431							4,152	4,152	4,143	10	80	666	3,406				
廃アルカリ	10,694	4,894	4,502	3,955	625	314	8	3,897	989							5,799	5,799	5,797	2	73	1,032	4,695				
廃プラスチック類	63,080	49,111	33,581	32,484	3,125	13,502	1,209	35,254	12,648	15	4,029	3,574	261	194	26	9,941	9,460	7,388	2,073	1,579	6,032	1,849	481	480	1	
紙くず	1,684	1,577	1,239	1,207	369		140	596	841	0						107	107	105	2	107	0	(0)	0			0
木くず	72,974	71,911	9,697	52,463	15,704	3,744	1,129	66,726	4,056	1,581						1,062	1,062	1,030	33	134	732	196				
繊維くず	973	903	773	521	334	48	63	293	548	3						70	70	69	0	70						
動植物性残渣	5,953	5,947	73	5,936		11	8	5,745	194							6	6	6			6					
動物系固形不要物	1,060	1,060	366	548	366	147		435	625																	
ゴムくず	24										24	24														
金属くず	7,985	5,865	15	4,379	1,182	303	8	5,850	7		248	217	6	25	3	1,872	1,872	1,015	857	35	1,821	16	1	1		
ガラス陶磁器くず	48,047	17,299	380	15,456	835	1,007	2,073	15,193	32	2	27,614	23,702	2,627	1,285	154	3,134	3,131	2,337	794	1,333	1,799	0	3	1	3	
鉱さい	54,228	52,448	41,544	35,843	706	15,899		52,448			1,030	993		38		750	750	750			750					
がれき類	868,433	848,782	58	557,808	237,167	53,807	1,195	847,539	48	29,011	12,754	11,110	833	812	72	6,897	6,890	3,599	3,291	2,609	4,281		7	6	2	
ばいじん	243,033	240,363	240,363	25,986		214,377		240,363			2,581	1,219	1,363			89	89	1	87	87	1	0				
コンクリート固化物	163	163	163		163			163																		
家畜ふん尿	163,832	163,832	25,663	123,250	40,582		52	120,358	43,422																	
家畜死体	6,842	1,232		509	15	708		123	1,109							5,610	5,610	2,074	3,536		1,122	4,488				
その他	11,736	1,892	1,126	1,793	54	45	120	764	1,008		751	667	17	67		9,093	8,985	8,789	195	1,240	5,733	2,011	109	109		
感染性廃棄物	2,617	1,126	1,126	1,125	0	1	118	1,008								1,491	1,491	1,491		15	266	1,210				
混合廃棄物	3,649	312		224	44	44		312			569	530	5	34		2,768	2,661	2,474	187	1,198	1,338	125	107	107		
その他	5,470	454		444	10		2	452			183	138	11	34		4,833	4,832	4,824	8	27	4,129	676	1	1		

第4章 産業廃棄物多量・準多量排出事業者の排出・処理実績

平成22年度における多量・準多量排出事業者からの実施報告に基づく排出事業者からの実績報告は表4.1、表4.2のとおりである。

表4.1 産業廃棄物多量・準多量排出事業者の排出・処理実績（種類別）

【多量L1】		(単位：t/年)								
種類	処理・処分処分 目標 排出量	実施状況								
		排出量	直接再生 利用量	直接最 終処分 量	自社処理					委託処理量
					中間処理量	減量化量	残さ量	中間処理 後の自己 利用・売 却量	中間処理 後の自己 最終処分 量	
合計	551,745	630,383 (100.0%)	60,997 (9.7%)	1,218 (0.2%)	174,516 (27.7%)	83,412 (13.2%)	91,105 (14.5%)	88,513 (14.0%)	1,430 (0.2%)	394,813 (62.6%)
燃え殻	7,032	6,693								6,693
汚泥	68,550	85,923	26		69,650	55,397	14,253	11,661	1,430	17,408
有機性汚泥	66,785	80,968	26		66,790	53,967	12,823	11,661		15,313
無機性汚泥	1,765	4,939			2,860	1,430	1,430		1,430	2,079
廃油	8,538	10,332								10,332
廃酸	2,775	2,550								2,550
廃アルカリ	1,625	996								996
廃プラスチック類	6,013	10,041	20		2,355	1,335	1,019	1,019		7,666
紙くず	1,309	1,699	24		281	280	1	1		1,394
木くず	19,734	22,930	161		6,148	436	5,713	5,713		16,621
繊維くず	67	92	0		20	17	3	3		72
動植物性残さ	4,832	5,728								5,728
動物系固形不要物										
ゴムくず										
金属くず	3,530	3,683	15	8	145		145	145		3,514
ガラス陶磁器くず	3,356	4,428	42		259		259	259		4,126
鉱さい	720	1,114								1,114
がれき類	181,495	233,851	33		54,469	1,819	52,650	52,650		179,349
ばいじん	119,594	137,957	55,814	879						81,264
コンクリート固化物										
動物のふん尿	90,916	95,039	4,862		40,696	23,749	16,947	16,947		49,481
動物の死体	152	294			294	179	115	115		
その他	31,506	7,034		331	199	199				6,504
感染性廃棄物	22	65								65
混合廃棄物	8,328	5,609		331	199	199				5,079
その他	23,155	1,360								1,360

表 4.2 産業廃棄物多量・準多量排出事業者の排出・処理実績（業種別）

【多量L2】

(単位：t/年)

業種	処理・処分	実施状況									
		目標		自社処理							委託処理量
		排出量	排出量	直接再生 利用量	直接最終 処分量	中間処理量	減量化量	残さ量	中間処理 後の自己 利用・売 却量	中間処理 後の自己 最終処 分量	
合計	551,745	630,383 (100.0%)	60,997 (9.7%)	1,218 (0.2%)	174,516 (27.7%)	83,412 (13.2%)	91,105 (14.5%)	88,513 (14.0%)	1,430 (0.2%)	394,813 (62.6%)	
農林業	102,450	96,590	4,862		40,990	23,928	17,062	17,062		50,738	
農業	102,450	96,590	4,862		40,990	23,928	17,062	17,062		50,738	
林業											
漁業											
鉱業											
建設業	216,430	265,458	265	339	62,830	3,851	58,979	57,549	1,430	202,024	
製造業	212,623	235,431	55,870	879	48,483	35,891	12,592	11,431		131,360	
食料品	4,106	4,698								4,698	
飲料・飼料	2,297	2,497								2,497	
繊維											
衣服											
木材	900	875								875	
家具											
パルプ・紙	40,251	42,053	26		37,212	27,037	10,176	10,176		4,815	
出版・印刷											
化学	10,984	12,653			4,454	4,209	245	245		8,199	
石油・石炭											
プラスチック											
ゴム											
皮革											
窯業・土石	20,454	24,581	30		6,816	4,645	2,171	1,010		18,896	
鉄鋼	44,830	37,207								37,207	
非鉄金属											
金属	2,506	2,092								2,092	
一般機器											
電気機器	2,899	5,138								5,138	
情報通信機器	394	486								486	
電子部品	5,118	3,272								3,272	
輸送機器	76,820	98,725	55,814	879						42,032	
精密機器	1,064	1,153								1,153	
その他製造業											
電気・ガス・水道業	11,401	23,874			21,763	19,706	2,057	2,057		2,111	
電気業											
ガス業											
熱供給業											
上水道業											
工業用水道業											
下水道業	11,401	23,874			21,763	19,706	2,057	2,057		2,111	
情報通信業	2,798	2,943								2,943	
運輸業											
卸・小売業											
金融・保険業											
不動産業											
飲食店・宿泊業											
医療・福祉業	22	65								65	
教育・学習支援業											
複合サービス業											
サービス業	6,021	6,022			451	36	415	415		5,571	
公務											
その他											

第5章 産業廃棄物の排出・処理状況の結果

(1)排出量

平成22年度の1年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の排出量は1,845千トンとなっており、種類別にみると、汚泥が850千トン(46%)で最も多く、次いで、がれき類が614千トン(33%)となっており、この2種類で全体の79%を占めている。(図5.1)

排出量を種類別、業種別にみると表5.1のとおりである。

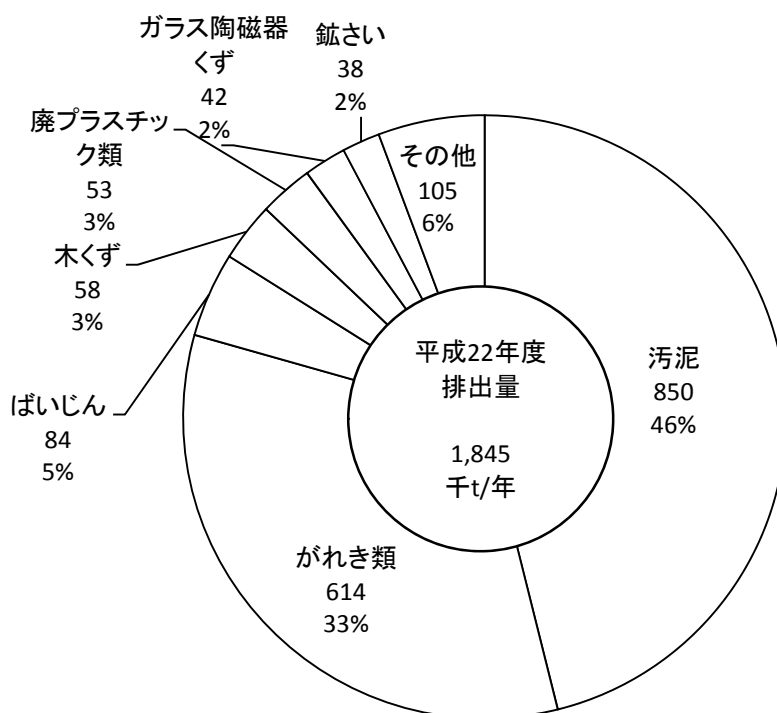


図5.1 産業廃棄物の種類別の排出量

表5.1 産業廃棄物の種類別、業種別の排出量

種類	業種													
	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育、学習支援	複合サービス業	サービス業	その他の業種
合計	1,845 (100%)	95 (5%)	695 (38%)	360 (20%)	521 (28%)	0 (0%)	1 (0%)	15 (1%)	1 (0%)	14 (1%)	3 (0%)	16 (1%)	27 (1%)	96 (5%)
燃え殻	12 (1%)		2	9			0	0	0	0	0	0	1	0
汚泥	850 (42%)	95	18	144	513	0	0	3	1	3	1	2	7	64
廃油	17 (1%)		1	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6
廃酸	38 (2%)		3	15	0	0	0	0		6	0	9	1	2
廃アルカリ	10 (0%)		0	5	0		0	0	0	0	0	0	0	4
廃プラスチック類	53 (3%)	0	20	11	0	0	0	8	0	2	0	3	4	5
紙くず	2 (0%)		1	0										
木くず	58 (3%)	0	52	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
繊維くず	1 (0%)		1											
動植物性残渣	6 (0%)			6										
動物系固形不要物	1 (0%)			1										
ゴムくず	0 (0%)		0											
金属くず	6 (0%)		3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ガラス陶磁器くず	42 (2%)	0	28	10	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1
鉱さい	38 (2%)		2	35							0		0	0
がれき類	614 (30%)	0	563	28	3	0	0	2	0	0	1	0	10	7
ばいじん	84 (4%)		0	84								0	0	0
動物の死体	3 (0%)											0	1	1
その他	12 (1%)	0	2	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	4

(2)再生利用量

平成22年度の1年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の再生利用量は1,036千トンとなっており、種類別にみると、がれき類が598千トン(58%)で最も多く、次いで、汚泥が140千トン(14%)、以下、ばいじん82千トン(8%)、木くず54千トン(5%)、廃プラスチック類37千t(4%)、鉱さいが37千トン(3%)等となっている。(図5.2)

再生利用量を種類別、業種別にみると表5.2のとおりである。

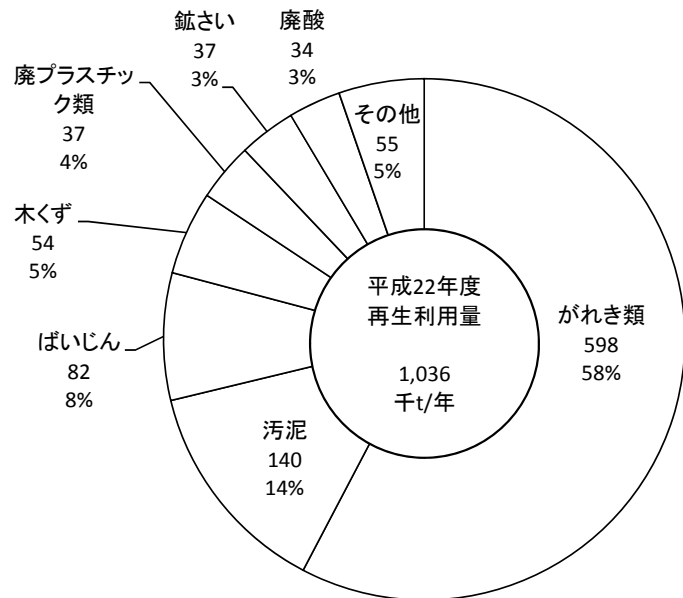


図 5.2 産業廃棄物の種類別の再生利用量

表 5.2 産業廃棄物の種類別、業種別の再生利用量

(単位:千t/年)

種類	業種													
	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育、学習支援	複合サービス業	サービス業	その他の業種
合計	1,036 (100%)	27 (3%)	636 (61%)	225 (22%)	21 (2%)	0 (0%)	1 (0%)	12 (1%)	1 (0%)	8 (1%)	2 (0%)	14 (1%)	17 (2%)	72 (7%)
燃え殻	9 (1%)		0	8								0	1	0
汚泥	140 (14%)	27	10	30	14	0	0	1	0	1	0	1	1	55
廃油	7 (1%)		0	3	0		0	1	0	0	0	0	0	2
廃酸	34 (3%)		3	14		0	0			6		9	1	0
廃アルカリ	4 (0%)		0	1			0	0		0		0	0	3
廃プラスチック類	37 (4%)	0	14	6	0	0	0	8	0	0	0	3	3	3
紙くず	0 (0%)		0	0										
木くず	54 (5%)	0	48	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
繊維くず	0 (0%)		0											
動植物性残渣	6 (1%)			6										
動物系固形不要物	0 (0%)			0										
ゴムくず														
金属くず	5 (1%)		3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ガラス陶磁器くず	16 (2%)	0	5	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
鉱さい	37 (4%)		2	34							0		0	0
がれき類	598 (58%)	0	549	28	3	0	0	2	0	0	1	0	9	4
ばいじん	82 (8%)			82										0
動物の死体	1 (0%)											0	0	0
その他	6 (1%)	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2

*種類は、中間処理により変化した種類で集計したもの。

(3)最終処分量

平成22年度の1年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の最終処分量は67千トンとなっており、種類別にみると、ガラス陶磁器くずが26千トン(39%)で最も多く、次いで、がれき類が15千トン(22%)、以下、汚泥が8千トン(12%)、廃プラスチック類が6千トン(9%)、燃え殻が6千トン(8%)等となっている。(図5.3)

最終処分量を種類別、業種別にみると表5.3のとおりである。

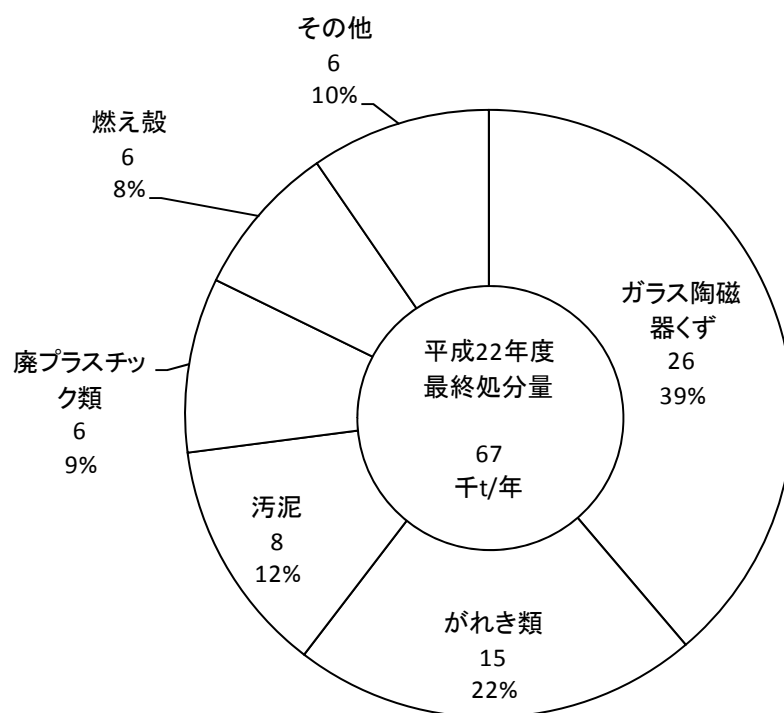


図 5.3 産業廃棄物の種類別の最終処分量

表 5.3 産業廃棄物の種類別、業種別の最終処分量

(単位:千t/年)

業種	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報・通信業	運輸業	卸・小売業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育、学習支援	複合サービス業	サービス業	その他の業種
種類	合計	67 (100%)	45 (67%)	8 (12%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	3 (5%)	7 (10%)
燃え殻	6 (8%)	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
汚泥	8 (13%)	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
廃油	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃酸	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃アルカリ	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃プラスチック類	6 (9%)	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
紙くず	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
木くず	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
繊維くず	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
動植物性残渣														
動物系固形不要物														
ゴムくず	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金属くず	0 (0%)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ガラス陶磁器くず	26 (39%)	23	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
鉱さい	1 (1%)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
がれき類	15 (22%)	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ばいじん	2 (3%)	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
動物の死体														
その他	2 (3%)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

*種類は、中間処理により変化した種類で集計したもの。

第6章 産業廃棄物の将来予測

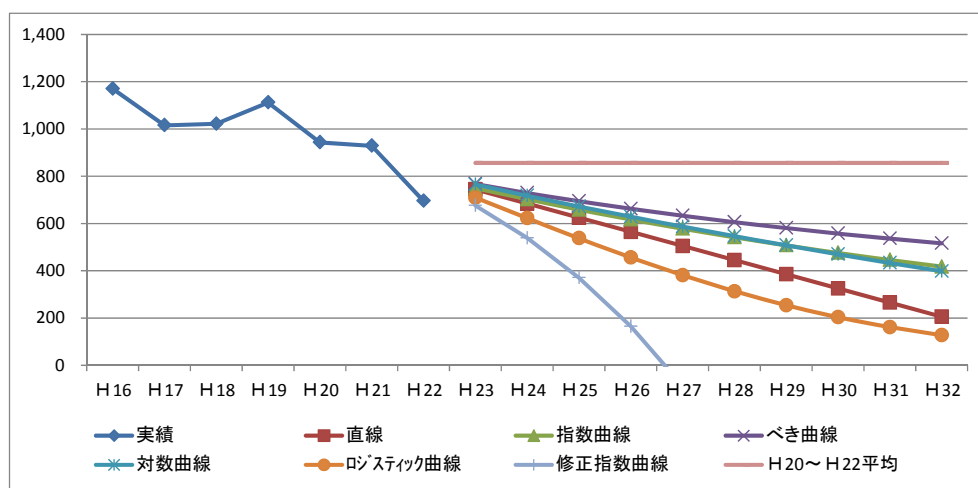
(1) 予測に関する基礎情報

産業廃棄物量の将来予測に当たっては、今後とも「大きな技術革新及び法律上の産業廃棄物の分類に変更がないものと仮定して、実態調査の過去からの排出量の実績の動向（トレンド）に対して数種類の回帰式（直線、指数曲線、べき曲線、対数曲線、ロジスティック曲線、修正指数曲線）を当てはめる時系列解析により行った。

本調査においては、ここ数年間の経済的な変動が大きかったことから将来の見込みが非常に難しいことに加え、震災等の影響により報告書等の提出が少なかったといったことも考慮し、現状との変化が最も少ない回帰式等を採用することとした。

① 建設業

建設業に関しては、排出量の実績値でみると、平成22年度に大きく減少がみられるため、トレンド予測すると、極端に減少してしまう。よって、H20～22年度の平均値での推移と仮定した。



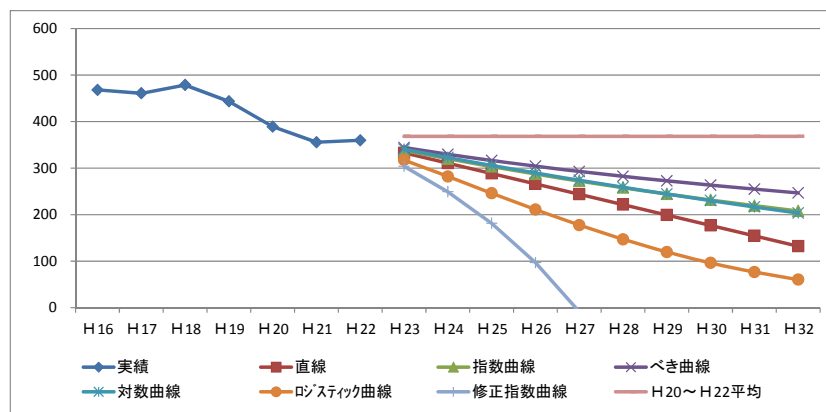
(単位：千t/年)

	実績		予測										相関係数
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
実績	929	695											
直線			744	684	624	565	505	445	385	325	265	206	0.70946
指数曲線			749	702	658	617	578	541	507	475	445	417	0.67691
べき曲線			767	729	694	662	633	606	581	557	536	516	0.65426
対数曲線			765	718	672	629	587	546	507	470	433	398	0.68839
ロジスティック曲線			709	623	538	456	381	313	254	204	162	128	0.75804
修正指数曲線			676	539	371	165	-88	-397	-776	-1,239	-1,807	-2,503	0.77826
H20～H22平均			855	855	855	855	855	855	855	855	855	855	

図 6.1 建設業の排出量の予測結果

②製造業

前年度将来予測と同様、平成 19 年度以降の減少が著しく、平成 22 年度は若干の増加がみられたものの、トレンド予測すると、減少幅が大きくなるため、H20～22 年度の平均値での推移と仮定した。



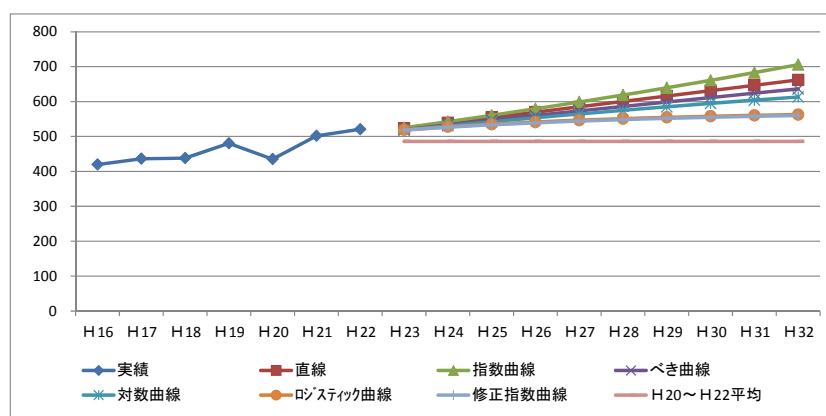
(単位：千 t /年)

	実績		予測										相関係数
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
実績	356	360											
直線			333	311	288	266	244	221	199	177	155	132	0.83704
指数曲線			338	320	303	287	272	258	244	231	219	208	0.81999
べき曲線			344	330	316	304	293	282	272	263	255	247	0.79520
対数曲線			340	323	306	290	274	259	244	230	217	203	0.82073
ロジスティック曲線			317	282	246	211	178	147	120	96	77	60	0.87141
修正指数曲線			304	249	181	97	-8	-139	-302	-506	-759	-1,074	0.86397
H20～H22平均			368	368	368	368	368	368	368	368	368	368	

図 6.2 製造業の排出量の予測結果

③電気・水道業

電気・水道業の排出量の実績値からトレンド予測し、最も変化が小さい修正指数曲線を採用した。



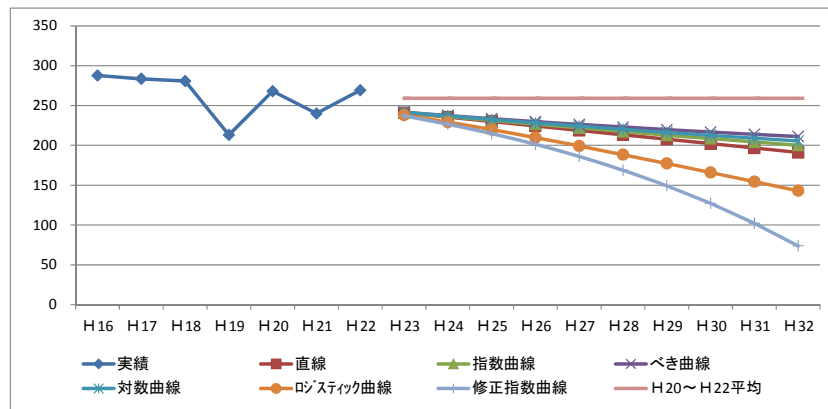
(単位：千 t /年)

	実績		予測										相関係数
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
実績	502	521											
直線			523	539	554	570	585	600	616	631	647	662	0.72898
指数曲線			525	543	561	579	599	619	639	661	683	706	0.73705
べき曲線			519	533	547	560	573	586	599	611	624	636	0.72279
対数曲線			518	530	542	553	564	575	585	595	604	613	0.71380
ロジスティック曲線			519	528	535	541	547	551	555	558	561	563	0.67709
修正指数曲線			518	526	533	539	544	548	552	555	558	560	0.65274
H20～H22平均			486	486	486	486	486	486	486	486	486	486	

図 6.3 電気・水道業の排出量の予測結果

④その他の業種

その他の業種の排出量の実績値からトレンド予測し、最も変化が小さいべき曲線を採用した。



(単位：千t/年)

	実績		予測										相関係数
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
実績	240	269											
直線			241	235	230	224	219	213	208	202	197	191	0.19367
指数曲線			241	236	231	227	222	217	213	209	204	200	0.19888
べき曲線			242	237	233	230	226	223	220	217	214	211	0.21739
対数曲線			242	237	232	228	224	220	216	213	209	205	0.21204
ロジスティック曲線			238	229	220	210	199	188	177	166	154	143	0.13891
修正指数曲線			237	227	215	201	186	169	149	127	102	74	0.11958
H20~H22平均			259	259	259	259	259	259	259	259	259	259	

図 6.4 その他の業種の排出量の予測結果

(2) 予測結果(排出量)

(1)の結果を業種別に整理すると表 6.1 のとおりであり、排出量は、平成 22 年度の 1,845 千トンに対して、平成 27 年度で 1,994 千トン、平成 32 年度で 1,995 千トンとなった。

また、種類別にみると表 6.2 のとおりである。

表 6.1 将来予測結果（業種別の排出量）

(単位:千t/年)

平成	実績		予測									
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
建設業	929	695	855	855	855	855	855	855	855	855	855	855
製造業	356	360	368	368	368	368	368	368	368	368	368	368
電気・水道業	502	521	518	526	533	539	544	548	552	555	558	560
その他	240	269	242	237	233	230	226	223	220	217	214	211
合計	2,026	1,845	1,983	1,987	1,990	1,993	1,994	1,995	1,995	1,995	1,995	1,995

表 6.2 将来予測結果（種類別の排出量）

(単位:千t/年)

	実績	予測					
		平成22年度	平成23年度		平成27年度		平成32年度
			H23/H22		H27/H22		H32/H22
合計	1,845	1,983	1.08	1,994	1.08	1,995	1.08
燃え殻	12	13	1.04	13	1.03	12	1.03
汚泥	850	838	0.98	853	1.00	859	1.01
廃油	17	16	0.97	16	0.95	15	0.92
廃酸	38	37	0.98	36	0.95	34	0.92
廃アルカリ	10	9	0.97	9	0.95	9	0.92
廃プラスチック類	53	56	1.05	55	1.02	53	1.00
紙くず	2	2	1.20	2	1.20	2	1.20
木くず	58	70	1.20	70	1.19	69	1.19
繊維くず	1	1	1.23	1	1.23	1	1.23
動植物性残渣	6	6	1.02	6	1.02	6	1.02
動物系固形不要物	1	1	1.02	1	1.02	1	1.02
ゴムくず	0	0	1.23	0	1.23	0	1.23
金属くず	6	6	1.09	6	1.08	6	1.06
ガラス・陶磁器くず	42	48	1.15	48	1.14	48	1.14
鉱さい	38	39	1.04	39	1.04	39	1.04
がれき類	614	742	1.21	741	1.21	740	1.21
ばいじん	84	86	1.02	86	1.02	86	1.02
動物の死体	3	3	0.90	2	0.84	2	0.78
その他	12	12	0.98	12	0.97	11	0.96

(3) 予測結果(処理量)

(2)で試算した排出量を基に、各業種別及び種類別における排出量に対する処理率が将来も現状(平成 22 年度)と同じであると仮定して処理処分量の将来予測を行った。

その結果は、表 6.3 のとおりである。

表 6.3 将来予測結果 (処理量)

(単位:千t/年)

	実績		予測					
	平成22年度		平成23年度		平成27年度		平成32年度	
排出量	1,845	100.0%	1,983	100.0%	1,994	100.0%	1,995	100.0%
再生利用量	1,036	56.2%	1,172	59.1%	1,164	58.4%	1,156	58.0%
減量化量	742	40.2%	735	37.1%	754	37.8%	764	38.3%
最終処分量	67	3.6%	76	3.9%	76	3.8%	75	3.8%

統計表 1 業種別・種類別の排出量

年次:2010 (単位:千t/年)

業種	種類	合計	燃え殻	汚泥	汚泥		廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	ゴムくず	金属くず	ガラス・陶磁器くず	鋳さい	がれき類	ばいじん	コンクリート固化物	動物のふん尿	動物の死体	その他	感染性廃棄物	混合廃棄物	その他
					有機性汚泥	無機性汚泥																						
合計		1,845	12	850	664	187	17	38	10	53	2	58	1	6	1	0	6	42	38	614	84			3	12	3	4	5
農林業		4	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0				0	0			0			1	0	0	0	0	
農業		4	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0				0	0			0			1	0	0	0	0	
林業		0														0												
漁業		0	0	0	0	0	0																					
鉱業		95		95		95														0								
建設業		695	2	18	8	10	1	3	0	20	1	52	1		0	3	28	2	563	0					2	0	1	1
製造業		360	9	144	125	19	8	15	5	11	0	2		6	1	1	10	35	28	84					2	0	0	0
食料品		39	0	31	29	2	0	0	0	1		0		6	1		0	0		0	0				0	0	0	0
飲料・飼料		1	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0			0	0		0								
繊維		0					0				0	0					0	0										
衣服		0									0						0											
木材		1	1	0		0	0			0		0					0	0		0					0		0	0
家具		0	0							0		0					0	0							0		0	0
パルプ・紙		57	3	50	49	1	0			2	0	0					0	0	0	1					0		0	0
出版・印刷		14	0	0		0	0	13	0	0	0	0					0	0		0					0		0	0
化学		15		9	8	1	4	0	0	1		0		0			0	0		0					0	0		
石油・石炭		0	0	0		0	0			0		0					0	0		0								
プラスチック		1		0	0	0	0			0		0					0	0		0					0			0
ゴム		0					0	0	0	0	0	0					0	0		0								0
皮革		0								0							0											
窯業・土石		49		15	6	9	0		0	0		1				0	9	0	24						0		0	0
鉄鋼		50	4	14	12	2	0	1	0	0		0				0	0	5	0	26								
非鉄金属		0		0		0	0			0		0					0	0		0								
金属		9	0	2	1	1	0	0	1	0		0					0	0	4	1					0		0	0
一般機器		2	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	0	0	0					0		0	0
電気機器		3		0	0	0	2	0	0	0		0					0	0		0					0		0	0
情報通信機器		1		0	0	0	0	0	0	0		0					0	0		1					0		0	0
電子部品		7		2	2	0	0	0	3	1		0				1	0		0						0	0	0	0
輸送機器		86		2	0	1	1	0	0	1		0					0	0	25	0	57				0	0	0	0
精密機器		19		18	18	0	0	0	0	0		0					0	0		1					0	0	0	0
その他製造業		4	0	1	0	1	0	0	0	2		0					0	0	0	0	1				0	0		
電気・ガス・水道業		521		513	509	4	0	0	0	0		0					0	0		3					4		1	4
電気業		7		0	0	0	0			0		0					0	0		3					4		1	4
ガス業		0		0		0	0		0	0		0					0	0		0								
熱供給業		0																		0								
上水道業		1		1	0	0	0	0	0	0									0	0								
工業用水道業																				0								
下水道業		512		512	509	4	0			0		0					0	0		0								
情報通信業		0		0	0	0	0	0	0	0		0					0	0		0					0		0	0
運輸業		1	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	0		0					0	0	0	0
卸・小売業		15	0	3	1	2	1	0	0	8		0					0	1		2					0	0	0	0
金融・保険業		0		0	0	0		0		0		0					0	0		0					0	0		
不動産業		2		0	0	0				0		0					0	0		2					0		0	0
飲食店・宿泊業		1	0	1	1	0	0		0	0		0					0	0		0					0		0	0
医療・福祉業		14	0	3	3	0	0	6	0	2		0					0	1		0					1	1	0	0
教育・学習支援業		3	0	1	1	0	0	0	0	0		0					0	0	0	1					0	0	0	0
複合サービス業		16	0	2	1	1	0	9	0	3		1					0	0		0	0				0	0	0	0
サービス業		27	1	7	6	1	0	1	0	4		1					0	1	0	10	0				1	0	0	0
公務		9	0	9	7	1	0	0	0	0		0					0	0		0					0	0		
その他		80	0	52	0	52	6	2	4	4		1				1	1	0	5	0				0	4	1	2	1

統計表 2 種類別の発生及び処理量 (その1)

(単位:千t/年)

区 分 種 類	発生量 (A) (B+C)	有償物量 (B)	排出量 (C) (D+G)	自己中間処理量						自己未処理量					搬出量 (H) (I+K+J)	自己最終処分量			
				(D)	自己中間処理後量				(E)	自己未処理の処理内訳				(I) (E2+G2)		(処理先地域の内訳)			
					(E1)	自己最終処 分量	委託処理量	その他量		(G1)	自己最終処 分量	委託処理量	その他量			(G3)	(G9)	県内	県外
合計	1,931	86	1,845	809	130	84	1	44		1,035	63	1	971		1,018	3	3		
燃え殻	12		12							12			12		12				
汚泥	851	1	850	760	85	39	1	44		91	0		91		136	1	1		
有機性汚泥	664	0	664	654	56	12		44		10	0		10		54				
無機性汚泥	187	0	187	106	29	27	1	1		81			81		83	1	1		
廃油	19	2	17							17			17		17				
廃酸	38		38							38			38		38				
廃アルカリ	10		10							10			10		10				
廃プラスチック類	57	4	53	2	1	1				51	7	0	44		44	0	0		
紙くず	6	4	2	0	0	0				1	0		1		1				
木くず	74	16	58	5	4	4				54	0		53		53				
繊維くず	1		1	0	0	0				1	0		1		1				
動植物性残さ	22	16	6							6			6		6				
動物系固形不要物	1		1							1			1		1				
ゴムくず	0		0							0			0		0				
金属くず	38	32	6	0	0	0				6	0	0	6		6	0	0		
ガラス陶磁器くず	45	3	42	0	0	0				42	0	0	41		42	0	0		
鉱さい	38		38							38			38		38				
がれき類	617	3	614	42	40	40				573	0	0	573		573	0	0		
ばいじん	84		84							84	56	1	27		28	1	1		
コンクリート固化物																			
家畜ふん尿																			
家畜の死体	3		3	0	0	0				3			3		3				
その他産業廃棄物	17	5	12	0						12		0	11		12	0	0		
感染性廃棄物	3		3							3			3		3				
混合廃棄物等	14	5	9	0						9		0	9		9	0	0		

統計表 2 種類別の発生及び処理量 (その 2)

(単位:千t/年)

区分 種類	委託処理量 (K) (O+L)	委託処理量の内訳									再生利用量 (R) (E1+G1+M1)	最終処分量 (Q) (I+O+M2)	委託処理後の内訳		その他量 (J) (E9+G9)	減量化量 (T)	資源化量 (S) (B+R)
		委託直接最終処分量			委託中間処理量			委託中間処理後量		(処理主体の内訳)							
		(処理先地域の内訳)			(処理先地域の内訳)			(委託処理後の処理内訳)		事業者 (Q1)			処理業者 (Q3)				
		県内	県外		県内	県外		再生利用量 (M1)	最終処分量 (M2)								
合計	1,015	49	47	1	966	899	68	904	889	16	1,036	67	3	64		742	1,122
燃え殻	12	2	2		10	9	1	10	9	1	9	3		3		0	9
汚泥	135	5	4	1	130	112	18	105	101	3	140	10	1	8		701	141
有機性汚泥	54	0	0		53	48	5	39	37	1	49	2		2		613	49
無機性汚泥	81	5	4	1	77	64	13	66	64	2	91	8	1	7		88	91
廃油	17				17	5	11	7	7	0	7	0		0		9	9
廃酸	38				38	33	4	34	34	0	34	0		0		4	34
廃アルカリ	10				10	4	6	4	4	0	4	0		0		6	4
廃プラスチック類	44	4	4	0	40	32	7	32	29	3	37	7	0	7		9	41
紙くず	1				1	1	0	1	0	0	0	0		0		1	5
木くず	53				53	52	1	50	49	1	54	1		1		4	70
繊維くず	1				1	1	0	0	0	0	0	0		0		0	0
動植物性残さ	6				6	6	0	6	6	0	6	0		0		0	22
動物系固形不要物	1				1	1		0	0		0					0	0
ゴムくず	0	0	0									0		0			
金属くず	6	0	0	0	5	4	1	5	5	0	5	0	0	0		0	38
ガラス陶磁器くず	41	24	24	0	18	15	2	18	15	2	16	26	0	26		0	19
鉱さい	38	1	1		37	36	1	37	37		37	1		1		0	37
がれき類	573	11	11	0	561	558	4	561	558	3	598	15	0	15		2	601
ばいじん	27	1	1		26	26	0	26	26		82	2	1	1		0	82
コンクリート固化物																	
家畜ふん尿																	
家畜の死体	3				3	1	2	0	0		1					2	1
その他産業廃棄物	11	1	1	0	11	2	9	8	6	1	6	2	0	2		3	11
感染性廃棄物	3				3	1	1	0	0	0	0	0		0		2	0
混合廃棄物等	9	1	1	0	8	1	7	7	6	1	6	2	0	2		1	11

参考資料（調査に関する基本的事項）

(1)調査対象年度

平成 22 年度（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

(2)調査対象廃棄物

調査対象廃棄物は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 137 号。以下「廃棄物処理法」という。）」及び同法施行令に定める以下の産業廃棄物とした。

調査対象廃棄物（ ）内は、細区分。
①燃え殻 ②汚泥（有機性汚泥、無機性汚泥） ③廃油 ④廃酸 ⑤廃アルカリ ⑥廃プラスチック類 ⑦紙くず ⑧木くず ⑨繊維くず ⑩動植物性残さ ⑪動物系固形 不要物 ⑫ゴムくず ⑬金属くず ⑭ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず [注、 本報告書における図表では「ガラス陶磁器くず」と略した] ⑮鉋さい ⑯がれき類 ⑰ばいじん ⑱動物のふん尿 ⑲動物の死体 ⑳産業廃棄物を処分するために処理したもの [注、本報告書 における図表では「コンクリート固化物」と略した]

特別管理産業廃棄物については、以下に示す区分とした。

特別管理産業廃棄物
①廃油（揮発油類、灯油類、軽油類） ②廃酸（pHが2.0以下の廃酸） ③廃アルカリ（pHが12.5以上の廃アルカリ） ④感染性廃棄物 ⑤廃石綿等 ⑥特定有 害廃棄物（廃石綿等を除く）

また、本調査においては、廃棄物の取り扱いを下記のとおりとした。

(ア)廃棄物処理法上、廃棄物とされない有償物で、今後の社会情勢の変化によっては産業廃棄物に該当する可能性のあるもの(具体的には、金属スクラップなど)は、今回の調査対象に含めた。

(イ)紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ及び動物のふん尿については、「廃棄物処理法」で、産業廃棄物となる業種が指定されている。このため、指定された業種以外の事業所から発生した紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ及び動物のふん尿については、事業系一般廃棄物とし、調査対象から除外した。

(ウ)酸性又はアルカリ性を呈する排水であって、これを公共用水域へ放流することを目的として事業所で中和処理を行っている場合には、中和処理後に生じた汚泥（沈でん物）を発生量とした。

(エ)廃棄物を自己焼却処理した後に燃え殻が発生する場合は、焼却処理前の廃棄物を発生量とした。

(3)業種区分

調査対象業種は、日本標準産業分類（平成14年3月改訂、総務庁）に記載されている区分を基本にして、表1に示す業種とした。なお、本報告書では、業種の名称を一部省略して用いた。

表1 調査対象業種

日本標準産業分類	略称
農業	農業
漁業	漁業
林業	林業
鉱業	鉱業
建設業	建設業
製造業 食料品製造業 飲料・飼料・たばこ製造業 繊維工業（衣服・その他の繊維製品を除く） 衣服・その他の繊維製品製造業 木材・木製品製造業（家具を除く） 家具・装備品製造業 パルプ・紙・紙加工品製造業 印刷・同関連産業 化学工業 石油製品・石炭製品製造業 プラスチック製品製造業 ゴム製品製造業 なめしがわ・同製品・毛皮製造業 窯業・土石製品製造業 鉄鋼業 非鉄金属製造業 金属製品製造業 一般機械器具製造業 電気機械器具製造業 情報通信機械器具製造業 電子部品・デバイス製造業 輸送機械器具製造業 精密機械器具製造業 その他の製造業	製造業 食料品 飲料・飼料 繊維 衣服 木材 家具 パルプ・紙 印刷・同関連 化学 石油・石炭 プラスチック ゴム 皮革 窯業・土石 鉄鋼 非鉄金属 金属 一般機器 電気機器 情報通信機器 電子部品 輸送機器 精密機器 その他
電気・ガス・熱供給・水道業 電気業 ガス業 熱供給業 上水道業 工業用水道業 下水道業	電気・ガス・水道業 電気業 ガス業 熱供給業 上水道業 工業用水道業 下水道業
情報通信業	情報通信業
運輸業	運輸業
卸・小売業	卸・小売業
金融・保険業	金融・保険業
不動産業	不動産業
飲食店、宿泊業	飲食店、宿泊業
医療、福祉	医療、福祉
教育、学習支援業	教育、学習支援業
複合サービス業	複合サービス業
サービス業	サービス業
公務	公務
上記以外	その他

(4)発生量及び処理状況の流れ図

調査の集計結果は、図 1 に示す発生量及び処理状況の流れ図に示した項目により、とりまとめた。なお、図 1 に示した各項目の用語の定義は、表 2 に示すとおりである。

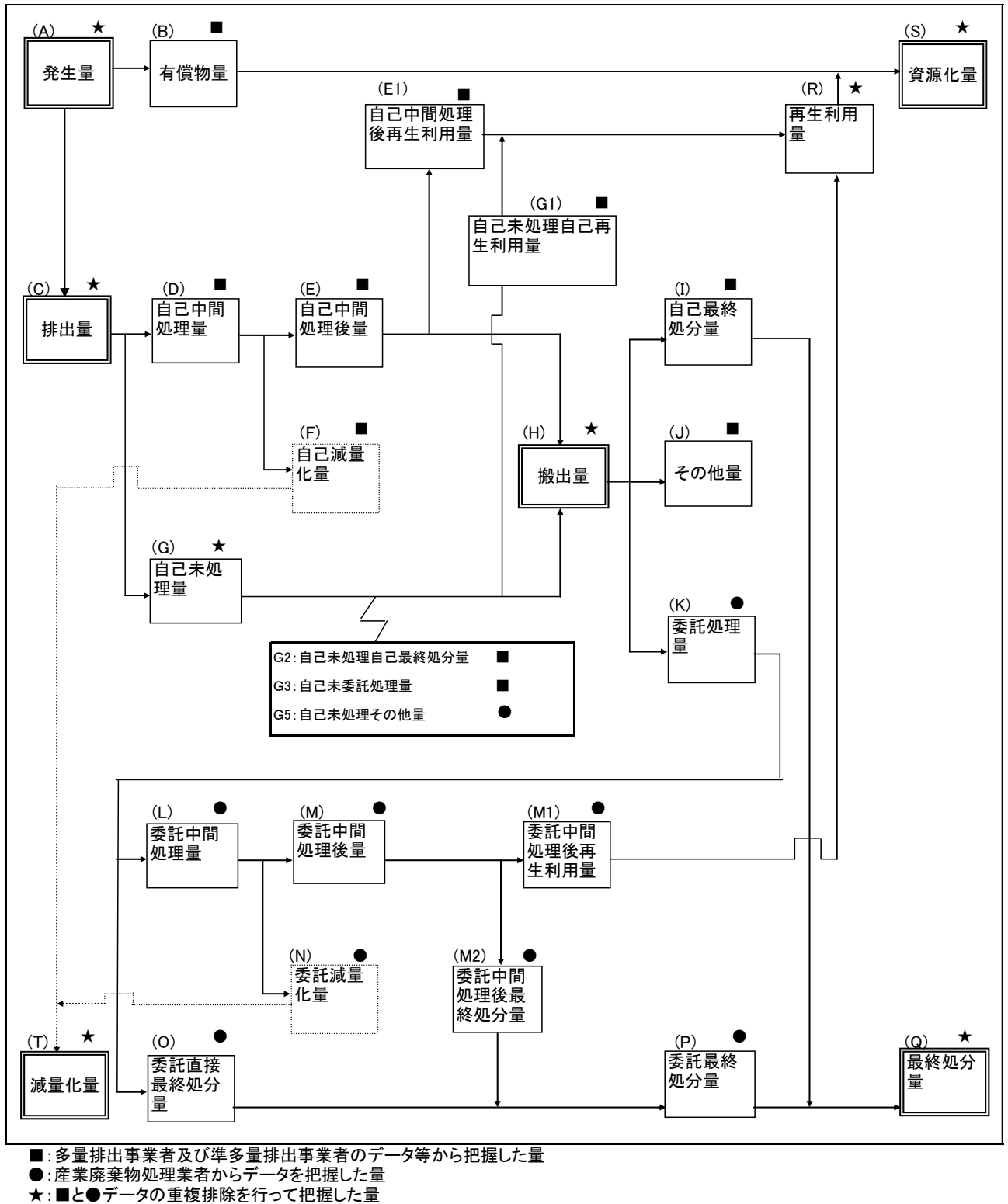


図 1 発生量及び処理状況の流れ図

表2 発生量及び処理状況の流れ図の項目に関する用語の定義

記号	項目	定義
(A)	発生量	事業場内等で生じた産業廃棄物量及び有償物量
(B)	有償物量	(A)発生量のうち、中間処理されることなく、他者に有償で売却した量(他者に有償売却できるものを自己利用した場合を含む)
(C)	排出量	(A)発生量のうち、(B)有償物量を除いた量
(D)	自己中間処理量	(C)排出量のうち、自ら中間処理した廃棄物量で処理前の量
(G)	自己未処理量	(C)排出量のうち、自己中間処理されなかった量
(E)	自己中間処理後量	(D)で中間処理された後の廃棄物量
(F)	自己減量化量	(D)自己中間処理量から(E)自己中間処理後量を差し引いた量
(G1)	自己未処理自己再生利用量	(G)自己未処理量のうち、他者に有償売却できないものを自ら利用した量
(G2)	自己未処理自己最終処分量	(I)自己最終処分量のうち、自己未処理で自己最終処分された量
(G3)	自己未処理委託処理量	(K)委託処理量のうち、自己未処理で委託処理された量
(G5)	自己未処理その他量	(J)その他量のうち、自己未処理でその他となった量
(E1)	自己中間処理後再生利用量	(E)自己中間処理後量のうち、自ら利用し又は他者に有償で売却した量
(H)	搬出量	(I)自己最終処分、(J)その他、(K)委託処理量の合計
(I)	自己最終処分量	自己の埋立地に処分した量
(J)	その他量	保管されている量、又は、それ以外の量
(K)	委託処理量	中間処理及び最終処分を委託した量
(L)	委託中間処理量	(K)委託処理量のうち、処理業者等で中間処理された量
(O)	委託直接最終処分量	(K)委託処理量のうち、処理業者等で中間処理されることなく最終処分された量
(M)	委託中間処理後量	(L)で中間処理された後の廃棄物量
(N)	委託減量化量	(L)委託中間処理量から(M)委託中間処理後量を差し引いた量
(M1)	委託中間処理後再生利用量	(M)委託中間処理後量のうち、処理業者等で自ら利用し又は他者に有償で売却した量
(M2)	委託中間処理後最終処分量	(M)委託中間処理後量のうち、最終処分された量
(P)	委託最終処分量	処理業者等で最終処分された量
(Q)	最終処分量	排出事業者と処理業者等の最終処分量の合計
(R)	再生利用量	排出事業者又は、処理業者等で再生利用された量
(S)	資源化量	(B)有償物量と(R)再生利用量の合計
(T)	減量化量	排出事業者又は、処理業者等の中間処理により減量された量

(5) 調査対象区域

調査対象区域は岩手県全域とし、保健所の管轄地域等により、以下に示す9区分とした。

表3 地域区分

地域名	広域地域	構成市町村
盛岡地域	盛岡広域	盛岡市、八幡平市、岩手町、葛巻町、雫石町、紫波町、矢巾町、滝沢村
岩手中部地域	県南広域	北上市、花巻市、遠野市、西和賀町
胆江地域		奥州市、金ヶ崎町
両磐地域		一関市、平泉町、藤沢町
気仙地域	沿岸広域	大船渡市、陸前高田市、住田町
釜石地域		釜石市、大槌町
宮古地域		宮古市、岩泉町、山田町、田野畑村
久慈地域	県北広域	久慈市、洋野町、野田村、普代村
二戸地域		二戸市、一戸町、軽米町、九戸村

(6) 単位と数値に関する処理

- ①本報告書の調査結果表においては、すべて1年間の量であることを明らかにするため、図表の単位は「千t/年」で表示しているが、文章中においては、原則として「千トン」で記述している。
- ②本報告書に記載されている千トン表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入しているために、総数と個々の合計とは一致しないものがある。
- ③本報告書中の表中の空欄は、推計上の該当値がないもの、「0」表示は、500t/年未満であることを示している。

